

外国語センター教官近況報告1993-1994

金子 亨

<活字になったもの、その予定のもの>

「北東シベリア先住民族の未来」『言語』(大修館) Vol. 23, No.5, 1994.5. pp. 72-77.

「言語類型論の方法」『言語』 Vol. 23, No. 9, 1994. 9, pp. 20-26.

「国家と方言」『日本語論』 Vol. 2, No. 9, 1994. 9, pp. 19-24.

『言語の時間表現』ひつじ書房<科研費出版助成による刊行> 1995. 2 刊行予定

<口頭発表その他>

「北東シベリアの先住民族」(都民カレッジ連続講義) 1994. 2-3 計10回

「北東シベリアの先住民族」(立川公民館講演) 1994. 2. 23.

「21世紀における東アジアの言語と文化の研究」(千葉大学・湖南大学交流協定10周年記念講演)
湖南大学 1994. 8. 27.

「アイヌ語を守るために—東シベリアの先住民族の経験から」(北海道教育委員会主催 アイヌ民俗文化財専門職員等研修会) 札幌 1994. 10. 26.

「北東アジアの諸言語の膠着類型」(北方ユーラシア学会第6回例会講演) 1994. 11. 12.

「シベリアの少数民族について」(日本スラブ東欧学会講演) 1994. 11. 26.

村田 年

<活字になったもの、その予定のもの>

Interactive Reading — Global Communication —. 1993年4月. 朝日出版社. 大学英語教育学会
教材研究委員会編(担当理事兼編集委員)

『JACET基本語4000』1993年6月. 大学英語教育学会. 教材研究委員会編(担当理事兼編集委員)

『英単語の発想事典』(デジタルブック版) 1993年11月. 三修社. 奥津文夫編著(『新英単語発想事典』(1989)の改定版. 分担執筆)

『英単語の覚え方事典』(デジタルブック版) 1994年1月. 三修社. (単著. 『基本英単語の意味』(1985)の改定版)

『ニュープロシード英和辞典』1994年10月. (株)ベネッセコーポレーション(編集委員. 特に基本5000語の語義記述を担当)

「最近の英和辞典の傾向」1994年6月. 『英語教育』43巻3号

書評『辞書学論考』1993年7月. 『現代英語教育』30巻4号(中尾啓介著. 研究社. 1993)

書評『ランダムハウス英和大辞典』第2版. 1994年3月. 『英語教育』42巻14号(小西友七他編. 小学館. 1994)

(106)

書評『新リトル英和辞典』『新リトル和英辞典』1995年1月13日『週刊読書人』（竹林滋編、小島義郎編、研究社、1994）

<口頭発表その他>

「Discourse Organisers と Evaluating/Locating Modifiers とのコロケーションの頻度調査」

1993年6月19日、日本英語表現学会22回大会（於 早稲田大学）

「辞書に見る話し手と聞き手の関係」1994年6月11日、日本英語表現学会23回大会（於 東海大学）（シンポジウム「語用論から言語表現を見る」の提案者の一人として）

「国際的な視野から見た日本の大学英語教育について」1994年6月18日、大学英語教育学会中国・四国支部第11回大会（於 梅光女学院大学）（シンポジウム「これからの大学生に必要な英語力とはいかなるものか」の提案者の一人として）

「千葉大学における外国語（英語）の改革」1994年11月19日、千葉地区大学一般教育研究会第11回研究総会および研究発表会（於 千葉工業大学）

中里知恵子

<活字になったもの、その予定のもの>

「英語音声学」（予定）

久保田正人

<活字になったもの、その予定のもの>

「形式と解釈の相互関係に関する有標性の原理」『千葉大学教養部研究報告』A-26. pp. 91-107, 1993.

「言語、認知、文字」『千葉大学教養部研究報告』A-26. pp. 109-160, 1993.

「言語学」、医療言語聴覚療法担当者講習会講義資料、40ページの小冊子、1993.

<口頭発表その他>

「時制をめぐって」、日本英文学会中部支部大会（於静岡精華短期大学）の英語学部門シンポジウムの司会者として最近の時制研究（とりわけ絶対時制と相対時制の研究）を概観した。1994. 10.

田端 敏幸

<活字になったもの、その予定のもの>

『ランダムハウス英和辞典第2版』（項目分担執筆）、小学館、1994. 1.

<口頭発表その他>

「外来語における母音挿入を考える」日本英語学会第11回大会（京都大学）、1993. 11

高橋 秀夫

<活字になったもの、その予定のもの>

高橋秀夫、「英語音声形式聞き取り訓練のためのCAIソフトウェア」、『言語行動の研究』、第3号、1993、pp. 124-138.

高橋秀夫、「レーザーディスクを利用したマルチメディア型用例検索データベースシステムの開発」、『言語行動の研究』、第3号、1993、pp. 139-157.

高橋秀夫、土肥充、「レーザーディスクを利用した英語ヒアリング学習用CAIソフトウェアの開発」、『千葉大学教養部研究報告』、B-26、1993、pp. 179-189.

Takefuta, Y., H. Takahashi, K. Shiina, C. Nishigaki, and M. Doi, "Development of Courseware for Effectively Teaching Listening Comprehension to Japanese Students of English," *Working Papers in Language and Speech Science*, No.4, 1994, pp.66-81.

H. Takahashi, "A CAI System for English Listening Practice with an Audio Output Device," *Working Papers in Language and Speech Science*, No.4, 1994, pp.106-124.

高橋秀夫、「英語ヒアリング学習における文字情報の効果的提示法に関する研究」、『言語行動の研究』、第4号、1994、pp. 125-136.

<口頭発表その他>

高橋秀夫、「英語ヒアリング学習における文字情報の効果的提示法に関する研究」、日本教育工学会第9回大会、於武庫川女子大学、1993.

土肥充、高橋秀夫、椎名紀久子、西垣知佳子、小川隆一、竹蓋幸生、「英語ヒアリング指導のためのマルチメディアCAIシステム」、教育工学関連学協会連合第4回全国大会、於岐阜大学、1994.

高橋秀夫、「英語ヒアリング学習用CAIにおける映像情報の提示効果に関する研究」、教育工学関連学協会連合第4回全国大会、於岐阜大学、1994.

椎名紀久子

<活字になったもの、その予定のもの>

椎名紀久子、竹蓋幸生、「3段階方式の指導法による音声形式聞き取り力の養成」、『言語行動の研究』、千葉大学英語学・言語行動研究会紀要、第3号、1993-3、pp. 2-14.

竹蓋幸生、椎名紀久子、「教材の難易度と応用力の向上に関する実証的研究」、『言語行動の研究』、千葉大学英語学・言語行動研究会紀要、第3号、1993-3、pp. 15-25.

Takefuta, Y., H. Takahashi, K. Shiina et al., "Development of Courseware for Effectively Teaching Listening Comprehension to Japanese Students of English," *Working Papers in Language and Speech Science*, No.4, 1994-4, pp.66-81.

竹蓋幸生、椎名紀久子、「大学改革のなかの英語教育改革（私案）」、『千葉大学教育学部研究紀

要』、第43巻、第2部、1995-2、pp. 51-67.

<口頭発表その他>

西垣知佳子、椎名紀久子、「英語聴解力育成用CAIのコースウェアの開発とその実践報告」、1993年度大学生協PCカンファレンス、於 工学院大学、1993-5.

椎名紀久子、竹蓋幸生、「音声形式の聴解力養成手法の開発と試用」、第33回語学ラボラトリー学会全国研究大会、於 早稲田大学、1993-8.

椎名紀久子、「教材の難易度と応用力の向上に関する実証的研究」、第32回大学英語教育学会全国大会、於 東北学院大学、1993-9.

土肥充、高橋秀夫、椎名紀久子、西垣知佳子、小川隆一、竹蓋幸生、「英語ヒアリング指導のためのCAIシステム」、第4回教育工学関連学協会連合全国大会、於 岐阜大学、1994-10.

竹蓋幸生、E. A. Berendt, *Listen to the World - Oral Communication B* (オーラル・コミュニケーション B: 文部省検定教科書), 教育出版(株)、1994-1、(編集協力).

中條 清美

<活字になったもの、その予定のもの>

中條清美、長谷川修治、竹蓋幸生、「日米英語教科書の比較研究から」、『現代英語教育』、研究社出版、第29巻、第12号、1993-3、pp. 14-16.

竹蓋幸生、中條清美、「語彙リストの客観的評価、比較のための有効度指標の開発」、『言語行動の研究』、千葉大学英語学・言語行動研究会紀要、第3号、1993-3-31、pp. 68-84.

竹蓋幸生、中條清美、「有効度指標の安定性についてII」、『言語行動の研究』、千葉大学英語学・言語行動研究会紀要、第3号、1993-3-31、pp. 85-115.

中條清美、竹蓋幸生、「学習語彙の有効度」、『言語行動の研究』、千葉大学英語学・言語行動研究会紀要、第3号、1993-3-31、pp. 116-122.

竹蓋幸生、中條清美、「語彙リスト：『現代英語のキーワード』—その開発と有効度の検証—」、『千葉大学教育学部研究紀要』、第42巻、Part I、1994-2-28、pp. 253-267.

中條清美、竹蓋幸生、「現代英語のキーワード『プラス α 2000』—定義と効果の検証—」、『千葉大学教育実践研究』、第1号、1994-3-30、pp. 39-51.

中條清美、長谷川修治、竹蓋幸生、「現代学習語彙の定性、定量分析—日米英語教科書の比較から—」、『言語行動の研究』、千葉大学英語学・言語行動研究会紀要、第4号、1994-4-3、pp. 39-52.

竹蓋幸生、長谷川修治、中條清美、「語彙リスト：「現代英語のキーワード」の認知レベルによる区分の妥当性」、『言語行動の研究』、千葉大学英語学・言語行動研究会紀要、第4号、1994-4-3、pp. 53-63.

<口頭発表その他>

中條清美、竹蓋幸生、「現代英語のキーワードプラス α 2000の定義とその効果」、第32回大学英語教

育学会、於東北学院大学、1993-9.

中條清美、竹蓋幸生、「語彙の有効度指標と実用英語によるコミュニケーション能力」、第33回大学英語教育学会、於愛知淑徳短期大学、1994-9-10.

竹蓋幸生、長谷川修治、中條清美、「Time, PBSに見るイディオムの計量的研究」、第36回日本時事英語学会、於常葉学園大学、1994-10-2.

山岡 捷利

<活字になったもの、その予定のもの>

「はやり歌とことば(3)」『言語文化』No. 5、明治学院大学、1993. 5

「誰かのためのエレジーのために」『千葉大学教養部研究報告』A-25、1993. 5.

「はやり歌とことば(4)」『千葉大学教養部研究報告』A-26、1994. 5.

書評『ルソーの世界』「読書人」、1993. 5.

教科書『女の顔』錬金社、1993. 3.

教科書『グールモン逸話集』錬金社、1994. 3.

小説「悪女・後篇」『文学無限』、1993. 9.

小説「K君からの手紙・前篇」『文学無限』、1994. 5.

泉 利明

<活字になったもの、その予定のもの>

『ポケット仏和・和仏辞典』小学館、1994.

「村の司祭論—二重性の物語として」『上智大学仏語・仏文学論叢』第28号、1994.

御子柴道夫

<活字になったもの、その予定のもの>

О неопубликованных письмах Вл.С.Соловьёва—Письма к Н.М.Соллогуб—, *the Journal of the College of Arts and Sciences* B-25, Chiba University. 1993.

「ロシアとは何か」『出版ニュース』3月下旬号、1993.

『ロシア精神のゆくえ—聖と俗の対話—』、NTT出版。

『キリスト教文学事典』(ソロヴィヨフ、ホミャコフ、キレエフスキ、レオンチェフなどの19世紀ロシア思想家の項目を執筆)、教文館、1994.

「ロシア正教とアジア的なもの—思いつくままに—」『ユーラシア研究』第2号、1994.

О восприятии идей Вл.Соловьёва в Японии, *the Journal of the College of Arts and Sciences* B-26, Chiba University, 1994.

「ロシアの淵より—ソロヴィヨフからの出発—」『現代思想』6月号、1994.

「ロシアの淵より—東方神学からの出発—」『現代思想』8月号、1994.

(110)

「ロシアの淵より一回帰」『現代思想』11月号、1994。

「オペラ『ボリス・ゴドゥノフ』の魅力、史実に照らして」『ウイーン国立歌劇場日本公演プログラム』、1994。

<口頭発表その他>

「ロシア精神の源—ロシア正教から見た精神史—」(講演)、新しい文明を語る会主催、於私学会館、1993. 3.

О восприятии идей Вл.Соловьёва в Японии, モスクワ大学、ユネスコ、ロシア科アカデミー、ローセフ学会共同主催、ローセフ生誕百年記念国際学術会議、於モスクワ大学、1993. 10.

田口 善久

<活字になったもの、その予定のもの>

「勉語諸方言と交公勉語の位置づけについて」『アジア・アフリカ文法研究22』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所。

<口頭発表その他>

勉語金門土語河口話の調査(1994年2月～3月)三菱信託山室財団の援助による現地調査。

周 飛帆

<活字になったもの、その予定のもの>

「中国における少数民族教育政策の歴史的展開」『比較・国際教育』第1号、pp. 39-52、1993.

「外国人児童の言語教育における国際交流意識—公立小学校における実態調査の分析を通して」

(村田翼夫、周飛帆、池田充祐、渋谷恵、山田千明共著)『比較・国際教育』第1号、pp. 83-108、1994. 3.

「アメリカの分裂—多元社会についての所見」(書評)『比較・国際教育』第1号、pp. 162-164、1993. 3.

「中国帰国子女の教育」『共生時代の教育』(帰国子女教育研究プロジェクト中間報告)、pp. 53-60、1993. 5.

「中国少数民族の言語政策に関する一研究」『比較・国際教育』第2号、pp. 45-55、1994. 3.

『日語入門』(共著)中国湖南人民出版社、1995年刊行予定。

<口頭発表その他>

「外国人児童受け入れ校における教育実践とその課題—南米日系人居住地と学園都市地域との比較調査を通して」(共同発表)、日本比較教育学会第29回大会、1993. 6. 19.

「文化和民族的研究動態」千葉大学・湖南大学友好協定締結十周年記念講演、1994. 9. 7.